



十一月三日から十六日まで約二週間、日本銀行本店において、「日銀ウォーキングミュージアム KINCO O」日本銀行×東京藝術大学 地下金庫展」を開催し二五〇〇名を超える方々にご来場いただきました。日本銀行では、多くの方々に日本銀行をより身近に感じていただくために、平成十六年から、地元日本橋地区の団体である名橋「日本橋」保存会とともにこうした催しを開催してきました。

今回は、創立一二〇周年を迎える東



# 日銀ウォーキングミュージアム KINCO 日本銀行×東京藝術大学 地下金庫展 開催

京藝術大学の協力を得て、国の重要文化財である本館の地下金庫と旧営業場を会場とした展覧会を開きました。日本銀行の地下金庫をミュージアムにし



ご挨拶する福井俊彦総裁(上)。オープニング・セレモニーでは、尺八と打楽器による「ふあんふぁーれ」が中庭に響き渡った(右)。

て自由にウォーキングしながら鑑賞していただくところから、「日銀ウォーキングミュージアム」というタイトルとなりました。

期間中は、この地下金庫展を中心に、初日となる十一月三日にはオープニング・セレモニーと演奏会、四日と十一日には市民講座、さらに平日は本館内の見学と、さまざまなプログラムをお楽しみいただく企画としました。以下では、本催しの模様をご紹介します。

## オープニング・セレモニー

十一月三日の文化の日、爽やかな秋晴れの下、本館中庭で行ったオープニング・セレモニーでは、福井俊彦日本銀行総裁、中村胤夫名橋「日本橋」保存会会長、六角鬼丈東京藝術大学美術学部長からの挨拶のほか、矢田美央中央区長から祝辞を頂きました。続いて、この日のために松下功東京藝術大学教

授が作曲した尺八および打楽器奏者による「ふあんふぁーれ」が演奏され、イベントの幕が切って落とされました。

## 演奏会

演奏会は明治二十九年に建築された本館内一階のホール(旧営業場)で、東京藝術大学の関係者によって行われ、東西文化の融合をモチーフに邦楽



と洋楽とがホールの東西に分かれて交互に奏でられました。邦楽都山流、琴古流の奏者による尺八音楽の古典的名作「鹿之遠音・鶴の巢籠」の吹合せ。また、洋楽についてはベートーヴェンの代表作の一つである弦楽四重奏曲第八番「ラズモフスキー第二番」の第一・四楽章が演奏されました。独特の音響効果を生み出す高い天井の下での素晴らしい演奏が終わると観客からは盛大な拍手が送られました。

### 地下金庫展

展覧会の会場となった地下金庫は、本館建築時から、三年前まで一〇〇年以上にわたって使用されてきたものです。重厚な扉やレンガの壁に覆われた

地下金庫の空間に音楽が流れ、壁にはさまざまな映像が写し出される美術と音楽の共同作品「resses」(リンダ・デニス×余田有希子)(上)。流れの止まった地下金庫で垣間見る時間の経過をイメージした「筆間隔の闇」(松島加奈)(下)。



金庫の内部に、東京藝術大学の若い大学院生の皆さんが制作したインスタレーション(空間芸術)や音響や映像を用いた個性的な作品が並べられました。また初日に演奏会を行った本館ロビーには巨大な立体作品や絵画なども置かれました。

今回の作品制作の指導に当たった東京藝術大学の坂口寛敏教授は地下金庫展のコンセプトについて、「地下という空間は人工的であり非日常性がある。また、金庫には物理的な密閉性ととともに、お金という欲望の象徴を貯蔵することを目的に存在する空間というところえ方もできる。今回の展示は、そ



のような性質を併せ持つ地下金庫という特殊空間を活かすことを考えた」と語られました。会場を訪れたお客様には、歴史的建造物と現代アートの融合という未知の体感をお楽しみいただけたのではないだろうか。最終日の十六日には東京藝術大学の教授陣による作品解説の特別プログラムが三回にわたって実施され地下金庫展の閉幕を飾りました。

### 市民講座

期間中の日曜日(四日、十一日)には、一般の方々に日本銀行の業務や金融政策、建物について理解していただくことを目的とした市民講座(全六回)を開講しました。二日間の受講者は合計で約六〇〇名に上りました。

### 【十一月四日】

初回は恵谷英雄情報サービス局長が「日本銀行への招待」というテーマで、日本銀行の概要や金融政策決定の仕組みのほか、業務や機能について解説。私たちの日常生活における身近な題材を引き合いに出しながら銀行券の流通や偽造防止技術、決済システムの仕組みのを説明したほか、「にちぎんのトリビア」として、「日銀は株式会社か?」など素朴な疑問について解説しました。

二回目は門間一夫調査統計局長によ



旧営業場では、木材の作品「星を受け止める為の器2007」円の為のオマージュ」(伊藤将和)を囲み、尺八の名作が奏でられた(右)。また、油絵作品の前に、弦楽四重奏の美しい音色が観客を魅了した(左)。

る「景気の話」。GDP、経済成長率、景気循環、短観、物価といった難しい内容も含まれていましたが、平易な言葉で時折ユーモアを交えながら話が進められたこともあって、終了後のアンケートでも「分かりやすかった」との意見が多くみられました。

この日の最終回は斉藤栄吉発券局長が「お金の話」という題でお札(日本銀行券)に関する話を中心に説明しました。現在も二種類ものお札が有効となっており、大黒天や武内宿禰の一



## 編集後記

■本号では、今年ミラノ・スカラ座やニューヨーク・メトロポリタン歌劇場へのデビューを果たし、NHKのプロフェッショナルにも取り上げられた指揮者大野和士氏にご登場願いました。まさに今、脂の乗っている指揮者だけあって、音楽に対する情熱と真摯な思いがストレートに伝わる刺激あふれるインタビューでした。

また、森のイスキアは、まさに、さまざまな矛盾や問題をはらんだ現代社会が図らずも生み出した「心のオアシス」なのでしょう。その清々しさに心が洗われました。われわれも、「精神の栄養」を与えられるような誌面づくりに一層努力しなければ、と改めて感じた次第です。

なお、前号「地域の底力」でご紹介させていただいた長野県下伊那郡下條村の取組みが、日本経済新聞社主催の2007年「につけい子育て支援大賞」を受賞されました。お祝いを申し上げると同時に、子供の歓声が響く村の今後の一層のご繁栄を祈念いたします。(恵谷)

■紅葉に彩られた岩木山の麓、「森のイスキア」に佐藤初女さんをお訪ねしました。穏やかなお声で話される津軽弁に心が柔らかくなるのを感じ、頂いたおにぎりは、ほかほかと温かく、誰もが持つ幸せな思い出を蘇らせてくれるような、ふんわりと優しい味がしました。「イスキア」はナポリの青年が生きる力を取り戻した小さな島の名前に由来しているそうです。帰り際、澄んだ空気の中、煌めくように鳴り響く鐘の音の下、小さくなるまで手を振ってくださったイスキアの皆さん。生涯忘れることはない美しい情景でした。(AU)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2007年 冬号  
編集・発行人 恵谷英雄  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 数島印刷株式会社  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載



11月11日の日銀市民講座では、「日本銀行の建物」をテーマに東大・鈴木博之教授に(上)、江戸東京博物館の竹内誠館長には、「日本橋の歴史と日本銀行」について(下)、それぞれご講義いただいた。

円札も使えることや、お札に施されている精巧な偽造防止技術などを紹介、受講者の皆さんは、お財布からお札を取り出しながら興味深く聞いておられました。

【十二月十一日】

この日の初回は鈴木博之東京大学大学院教授をお招きし、「日本銀行の建

物」というテーマでお話いただきました。

日本銀行本館が建築された当時の時代背景や設計思想、その様式的特徴などが多くの絵や写真とともに明解に解説されました。本館の随所にちりばめられている当時の西洋建築技法については、あまり知られていない内容も多く、講座終了後には壁や天井などを眺

めながら学んだことを確認する姿が目立ちました。

二回目は、田尻隆士日本銀行貨幣博物館館長が「お金の歴史と貨幣博物館」について講義し、わが国におけるお金の歴史を時代の順を追って説明しました。

また、豆知識として「鑑(びん)一文まけられない」「太鼓判を押す」「金に糸目をつけない」との言葉の由来も披露されました。話を聞いて貨幣博物館に向かう参加者も多く見られました。

市民講座の最終回は江戸東京博物館の竹内誠館長に飾っていただきました。「日本橋の歴史と日本銀行」というテーマで、日本橋がもっていた文化的、経済的な側面について、長崎との深い関係や地元豪商の存在など史実を

もってご説明くださいました。自らの原体験も織り交ぜたユーモアあふれる語り口からは地元への深い愛情がにじみ出ていました。



2日間の市民講座には、約600名にも上る多くの皆さんにご参加いただいた。